

# 令和5年度 伊敷台中学校ブロック 小中連携研修会 まとめ

## 1 目的

全教育活動を通して小学校と中学校が連携を深め、共通理解・共通実践をする中で、「豊かな人間性」「確かな学力」「健康・体力」などの「生きる力」の育成を図る。

特に、9年間の学びの連続性を追求することを通して、学習指導方法の工夫や改善を行い、基礎学力の定着を図るとともに、中1ギャップの解消やいじめ・不登校の課題解決のため、一人一人の児童生徒のよさを認め、どの児童生徒も存在感・充実感のもてる学校・学級づくりに努める。

## 2 日程 令和5年6月5日(月)

15:30~16:15	分科会(45分)	
	開会の言葉	
	各校の取組の発表(15分【5分×3校】)	
	協議・情報交換(28分)	
	指導助言(2分)	
16:15~16:25	移動・準備	(10分)
16:25~16:40	全体会	(15分) 体育館
16:40~16:45	閉会の言葉	(5分)

## 3 各分科会で話し合われたこと

### A 学習指導(学習のきまり)

- ・ 学習のしつけ・・・統一したルールづくり、共通理解
- ・ 基礎学力の定着を目指した取組の共有、共通理解
- ・ 家庭学習の取り組み方についても共通実践事項内容を決めてもよいのではないか
- ・ 中学校まで見通した計画力の育成



### 本年度の共通実践事項(学習指導)

- ◎時間前の着席(何分前)
- ◎言葉を言ってからの礼
- ◎姿勢を正しくする

### B 生活指導

立ち止まってあいさつ

- ・ 委員会を中心にして、少しずつよくなっている
- ・ 門礼の回数を数えて、すすんで向上できるようなシステム  
→ 立ち止まりではなく、「すすんであいさつ」にしてはどうだろうか。

- はきものを揃える … 教師主導で行って、できている。  
「揃えてくれてありがとう」などの掲示  
生徒会を中心にして
- 服装を整える ……… 生徒会を中心にして校則の改定  
→ いつでも受験に行ける服装
- 無言で集合 …………… 学年に応じてしっかり守らせる
- 無言でそうじ ……… 中学校では伝統を守って続けることができている。



### 本年度の共通実践事項（生活指導）

- ◎進んであいさつ
- ◎無言で集合・掃除（一生懸命掃除をする）
- ◎はきものをそろえる
- ◎服装を整える

今後も中学校の課題を小学校に引き継ぐことを続けていく。

- 検討事項・・・時間の感覚が身に付くような指導  
授業の前は準備の時間を徹底する。

### C 特別支援教育

伊敷台中学校の生徒について情報交換をした。中学校でどんな様子か詳しく分かり、貴重な時間となった。

〔話題になったこと〕

- ・ 昨年度の伊敷中学校の進学先について
- ・ 整理整頓の仕方について（苦手な生徒がいるのでよい支援の仕方はないか）
- ・ 他児童，生徒への支援学級理解について・・・心の教育  
（学年集会や1年生の各クラスの道徳等の時間において，どんなことを学習しているのか話す機会を設けている）
- ・ 自己肯定感の低い児童，生徒が多い実態がある。
- ・ 中学校から進路指導の実態について

〔次年度へ向けて〕

児童・生徒の具体的な情報交換とあわせて，各学校で気になることやよい指導方法についても話題にしていきたい。

## D 新中学1年生

[中学校の様子]

よかった点

- 全体的に元気、明るい生徒が多い
- 生徒指導面は落ち着いていてあまりない
- 提出率はよい
- 体育指導面から準備・集合・片付けはできる

指導してほしい事項

- ・ 名前を呼ばれた時に返事ができない生徒が多い
- ・ 会釈の習慣がない
- ・ 姿勢が崩れる生徒が多い
- ・ 生活の記録など文字が乱れている
- ・ 言葉遣いがよくない(先生方に対して)
- ・ 箸忘れが多い
- ・ 立つ姿勢がよくない
- ・ 偏食が多い

[不登校生徒について]

- ・ 各クラスに不登校傾向の生徒がいる。(友達関係や大人数が苦手、保健室登校など)

[来年度の編成時の確認事項]

- ・ 今年度は特別支援学級の生徒と交流学級の生徒は同じクラスになっているが、どうしても一緒のクラスでは難しい生徒もいるため、来年度は実態に応じて違うクラスにもできるようなクラス編制を行いたい。

## E 人権同和教育部会

[伊敷台小]

- ・ 不登校児童との関わり方・保護者との連携
- ・ 各種研修会への参観の呼びかけ

[伊敷小]

- ・ 「人権感覚を育てるとは」をテーマに取り組んでいきたい
- ・ サークルトークの取組
- ・ 生徒指導提要についての共通理解

[伊敷台中]

- ・ 教科書無償運動についての話をしている(教科書配布時)
- ・ 「こころスケール」…毎月自分の心の状態を見つめる場(学活、ファイルあり)

[意見交換]

- ・ 部落差別学習をとりあつかっているかどうか
- ・ 講師を招いての学習等を通して、生徒も深く考える場が多いので、作文等に生徒が深く考えていることが分かる内容が多い。

- ・ 授業で学んだことが相手を攻撃するためのものになってはいけない。  
→人権感覚を育てることが大切、同時に折れない心も育てる。
- ・ 分からないと言える、他者を思いやる学び合いの場が大事。
- ・ 情報が多く、意味を理解していないのに、言葉だけを使っている現実。人を傷つけることにつながる。
- ・ 安心できる場所、安心できる大人  
→自尊感情を育てる、自己肯定感を高めることにつながる。

## F 養護教諭部会

- ・ 3校それぞれの生活リズムやメディア時間に関する取組を紹介し、意見交換を行った。
- ・ 伊敷台中では、PTA と生徒会と一緒に作成した「メディア9時オフ」のポスターを家庭に配付した。家庭でルールを決め、夏休みは、週1はメディアオフの日を家庭で取り組む。
- ・ どの学校でも、生活リズムチェックについては、塾の時間の関係や、家庭の事情…など意見が出るのは一緒であった。
- ・ 伊敷小、伊敷台小…学期1回の生活リズムチェックを実施している。
- ・ 不登校傾向、登校しぶり、保健室登校など、さまざまな理由で教室に行けない児童生徒の対応については、生徒指導部や、諸先生方、またスクールカウンセラーと連携して対応していく。
- ・ 小学校・中学校は、きょうだい関係も含めて、今後も連携が必要である。

## G 外国語活動・外国語、英語科

[タブレットの活用の仕方について]

- ・ ロイロノートの活用方法を模索中ではあるが、小学校で活用しているため、中学校でも生徒がスムーズに活動に入れている。今後も積極的に活用させる。

[Can-Do-List の作成について]

- ・ 中学校の教科書巻末に記載されているものを基本として活用する。  
→ 小学校教諭は、デジタル教科書で確認し、活用する。

[書くことについて]

- ・ 小学校では、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しむことを重視して指導する。
- ・ 中学校1年生の教科書が、小学校で600～700語学習していることが前提で構成されている。また、「Sounds and Letters.」が中学校で学習するフォニックスにつながるため、音と文字を結び付けることを丁寧に扱う。  
→ 中学校での読む力・書く力につながる。
- ・ 5年生からは、教科書を利用してアルファベットの大文字・小文字を正しい書き順で、四線を基準にして書かせる。ヘボン式ローマ字で自分の名前を書けるように指導する。
- ・ 英文を書き写す、書かせるような活動では、「文頭大文字、文末ピリオド、単語と単語の間は小文字1～2文字空ける、1つの単語は文字をくっつけてひとまとまりで書く」ことを特に意識して書かせる。

〔評価について（現状）〕

- ・ 中学校：観点別テスト，スピーキング（ALTと一対一で）学期1回，  
振り返りシート（毎時間）
- ・ 小学校：振り返りシート，高学年は単元の最後の方でスピーキングテスト（一人ずつ）

〔その他〕

- ・ 小学校で使用する Picture Dictionary を中学校まで持ち上がらせてほしい。